

だいち通信 VOL. 65



〒080-0016 帯広市西6条南6丁目3番地ソネビル2F TEL (0155)-24-8989 FAX(0155)-20-7367
E-mail shien-daichi@ymail.plala.or.jp URL http://www.keisei-kai.jp/daichi/

ご挨拶

昨年度はコロナウイルス感染症による度重なる活動の自粛がありましたが、新たな活動のスタイルを模索させることができた年でもありました。集合研修が難しくれば我々が出向くことに方針をシフトチェンジしたことにより、より多くの皆様より地域課題やニーズをお聞きし改めて確認できたことが大きな成果となりました。集約した貴重なご意見をもとに、今年度は1つずつ課題の解決にあたってまいります。今年度は改めて「地域作り」を目標に、皆様の力を借りながらそれぞれの地域に合わせた就労支援の在り方を検討しながら活動を行いますので、よろしくお申し込み申し上げます。

＜令和3年度の重点目標＞

- ① 就労相談をきっかけとした、福祉サービス・行政等関係機関・相談支援・当センターの機能的な連携を見える化することを目指します。
- ② 特に就労移行支援事業所を中心とした就労系障がい福祉サービス事業所との連携のもと、就労準備ができた方の把握と、マッチング・定着後の支援プロセスの共有を行います。
- ③ 企業プロジェクト・移行支援連絡会などの活動を地域の企業団体や行政機関をまきこんだ活動に発展させることにより、効果的な障がい者雇用に対する理解や普及啓発に努めます。
- ④ 昨年度行った「地域診断」をもとに、各市町村の抱える課題について、波及できるモデル作りを目指します。

主任就業支援担当者 佐藤尚美

令和2年度 実績報告

～毎年、厚生労働省と北海道に報告している年間の実績数をお知らせします～

昨年度の新規登録者は89名となり、前年度の新規登録者数（134名）より少ない数となりました。ハローワークが公表している求職者数及び就職者数の推移と同じく、先の見えない不安などによる求職者のモチベーションの低下が関係していると感じます。その様な中、相談件数は前年度を大きく上回り、不安定な社会情勢やストレスのはげ口が持たなくなってしまう結果、一人あたりの相談件数が増えている状況です。昨年度新たな報告項目となった「一般就労に向けたアセスメント数」に関しては、職場実習の活動を中心に、福祉サービス事業所を始めとした関係各所と共同で行っている状況が反映しています。これまで当センターが注力してまいりました「関係機関との連携」が形となって現れてきているものと感じます。

| 支援対象登録者数 | 身体 | 知的 | 精神 | その他 | 合計 |
|----------|---------|----------|----------|---------|------|
| | 17 (2) | 224 (54) | 145 (21) | 61 (12) | 447 |
| その他内訳 | 発達 | 難病 | 高次脳 | その他 | (89) |
| | 47 (10) | 0 | 3 | 11 (2) | |

※ () 新規登録者数

| 相談支援件数 | 身体 | 知的 | 精神 | その他 | 合計 |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|
| | 90 | 3,675 | 3,399 | 1,063 | 8,227 |
| その他内訳 | 発達 | 難病 | 高次脳 | その他 | |
| | 884 | 0 | 35 | 144 | |

| 就職件数 | 身体 | 知的 | 精神 | その他 | 合計 |
|-------|----|----|-----|-----|----|
| | 3 | 40 | 11 | 3 | 57 |
| その他内訳 | 発達 | 難病 | 高次脳 | その他 | |
| | 3 | 0 | 0 | 0 | |

| 職場実習 斡旋件数 | 身体 | 知的 | 精神 | その他 | 合計 |
|-----------|----|----|-----|-----|----|
| | 0 | 41 | 18 | 5 | 64 |
| その他内訳 | 発達 | 難病 | 高次脳 | その他 | |
| | 5 | 0 | 0 | 0 | |

| 一般就労に向けたアセスメント | 身体 | 知的 | 精神 | その他 | 合計 |
|----------------|----|----|----|-----|----|
| | 0 | 44 | 25 | 8 | 77 |

『新資源マップ』の更新もありがとうございました！！

昨年度、就労系障がい福祉サービス（就労移行・A型・B型）地域活動支援センターの皆様へ新資源マップの作成のご協力依頼をさせていただきました。新規事業所も含め半数以上の事業所が更新をして下さり、感謝いたします。地域の情報を見る化し、相談者の方や関係機関の皆様にご活用いただけるよう、引き続き更新のお声掛けをさせていただきます。

新入社員の挨拶

福山 雫

はじめまして。4月1日からだいちで勤務しています。出身は愛媛県で、名寄市立大学の入学を機に北海道で過ごし、この度初めて十勝にやってきました。私の好きなジャガイモやスイーツ、自然にあふれている十勝の魅力にどんどんはまってきています。だいちでは生活支援ワーカーとして勤務させていただきます。まだまだわからないことばかりですが、早く皆様のお役に立てるよう努めていきたいと思っております。社会人1年目、精一杯頑張ります。これからよろしくお申し込みいたします。

異動の挨拶

増田 明香

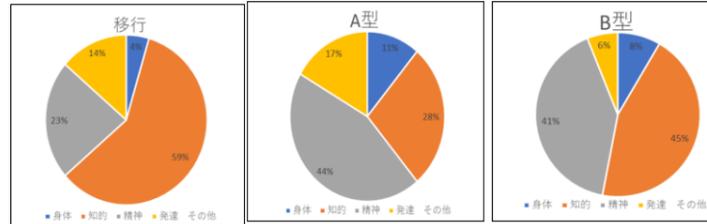
こんにちは。昨年の10月1日付けで帯広生活支援センターとの兼務しております。相談支援専門員として相談して頂く方々が「どのような人生を送りたいのか」を共に考えるお手伝いをさせて頂いております。今後は就労相談も加わりますがこれまでと同様、皆さまが当たり前、生き生きと働く（生活する）お手伝いができるよう、知識や経験を積み重ねていきたいと思っております。不慣れなことばかりですが、早く皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域の関係機関訪問が終了しました！

昨年度は、今の状況下にあっても当センターが出来ることは何かを考え、皆様の様々な状況や地域ニーズを伺い、情報を収集・集約・整理し、地域の皆様へ発信することを目的に、十勝管内の市町村行政・特別支援校・企業・福祉サービス事業所(就労移行・A型・B型・地活)等の関係機関総勢100か所以上の皆様の元を訪問させていただきました。この時期にあえて訪問を受け入れて下さり、ご協力いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。約1年かけての聞き取り訪問を通し、地域の多くの皆様と顔を合わせお話が出来たことで、新たな活動や取組みが生まれ、課題に対して改めて考える機会となりました。

頂いた声を参考に『行政福祉担当者研修会』や『就労移行支援事業所連絡会』『資源マップの新規リニューアル』、遠方の事業所でも参加可能な『リモートを取り入れた研修会』の実施など、様々な活動のアイデアをいただくことが出来ました。今回は、聞き取りの中でいくつかのトピックスをご紹介します。詳しい内容については9月に行う研修にて報告を予定しています。（研修の報告については別紙をご覧ください）

事業所ごとの利用者層 ※就労系事業所のみ



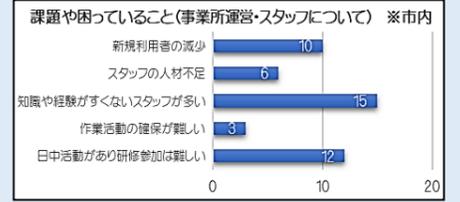
十勝管内の福祉サービス事業所の約80事業所へ訪問しました。
⇒市内51カ所：就労移行…8、A型…10、B型…38、地活…8
町村35カ所：A型…3、B型…28、地活…10
※内訳は多機能型含むため重複あり

A型では主に精神障がいをお持ちの方が多く、就労移行やB型については特別支援校から利用される方が増える等、知的障がいをお持ちの方が多くなっているようです。その中でA型では、精神障がいをお持ちの方が長期的に利用を継続し続け一般就労に結びつきにくい現状が課題として挙げられ、B型に関しては、障がいの重度化や高齢化が見られ、ステップアップを目指す方の数も減っている声が多く聞かれました。

◇各事業所からの聞き取りからは、様々な課題や困り事、地域で求められているニーズ等が挙げられました。
◇現在十勝管内の事業所は、全体総数の半分以上が市内に集中しており、その中で就労移行に関しては、休止中の箇所を除くと市内のみにしかない状況になっています。地域によっては資源がない所もあるため、地域資源の偏りや、選択肢が狭まってしまっている状況は市から離れば離れる程見られる状況が改めて確認できました。

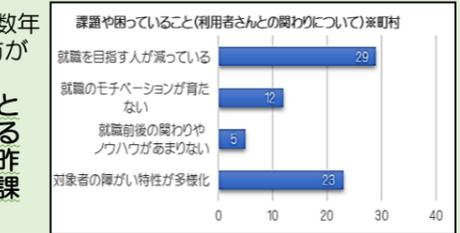
市内

・ここ十数年で市内にかなり事業所数が増え、選択肢も幅広くなっているようです。その中で、相談支援専門員・特別支援校・利用者間同士の紹介から繋がる等、事業所によってその利用経路は異なるものの、中にはその様な紹介経路があまりなく、新規の利用者さんが増えていない声を挙げられる事業所も少なくありませんでした。
・以前と比べ、日中活動を主な目的に通所される方が多くなっているようです。
・事業所数が多くなったからこそ、以前よりも横のつながりを作りづらくなっている状況があり、事業所を越えたスタッフ間交流や、意見交換の場を求める声が多くありました。中には新規に立ち上げられた事業所もあつたため、様々なノウハウを学ぶ機会として、活動の共有を求める機会を必要とされるご意見も伺いました。
⇒市内で挙げられた課題に対し、事業所運営に関してのフォローは行政だけではカバーしきれない部分もあるため、様々な機関との連携が改めて必要と感じました。また、就職に向けたバックアップや個別支援を行っていく中で、更に相談支援事業所との連携や、福祉サービス事業所同士の関わり・ノウハウを共有する場等が必要になると感じました。昨年度はその第1弾として、就労移行を対象とした連絡会の開催に至りました。



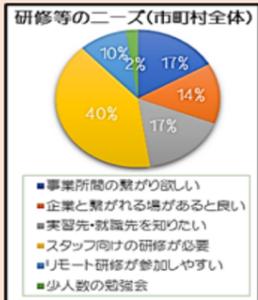
町村

・地域ごとに、事業所が数カ所、もしくは1つもない町村もあることから、利用希望をされる方の層が幅広くなっているようです。
・町村に就労移行支援事業所がないため、一般就労を目指す方のフォローをB型や地活が担い、尚且つ手厚い生活支援が必要な方も含め、多岐に渡った関わりを各事業所にて行っている状況があるそうです。
・就労移行がない地域特性や重度・高齢化が見られている状況も多く、市内同様、数年前と比べ一般就労を目指す方より、日中活動を保証する居場所として利用される方が多くなっている状況もあるようです。
⇒以上に関する状況は、町村の行政担当者の方も同じように課題を感じていることが分かりました。地域によって問題意識を持ち事業所等と密な連携を取っている所もあれば、あまり関わりを持たずにいる地域もあり様々でした。そのため、昨年度はまず地域の核となる行政担当者の方を対象に、他の市町村の地域事情や課題等の状況を共有するため『行政福祉担当者研修会』の実施をしました。



地域づくりのニーズについて

・市町村全体を通し、スタッフの人材育成のための研修等を求めている声が多数挙げられましたが、日中は作業活動や送迎等で時間が取れず遠方であることから、参加しづらいというのが実際の現状としてあるため、リモートやDVD等の研修教材の活用を希望する声がありました。
・市内事業所からは、福祉経験が少ない方等も多くなっている現状があるとのことから、基本的な知識を学ぶ内容を求めている声がありました。
・町村からは、大規模の研修会とは別に、地域ごとや周辺エリアの町村とコラボし、小規模で勉強会等が出来ると良いとの声もいくつか挙げられました。
⇒これらの意見も踏まえ、昨年度はコロナ禍の状況や遠方での参加しやすさも加味し、リモートを活用した企画を行ってきました。また昨年度の聞き取りを経て、市内と町村の異なる課題やニーズを踏まえ今後の活動に活かしていきたいと思っております。



昨年度のだいち研修ダイジェスト

雇用促進・就労定着プロジェクト

障がい者雇用に積極的に取り組んでいる企業が
集まり活動している会です！

昨年度はプロジェクト企業においても活動制限をせざるを得ない事態になりました。その余波はいまま尚続いています。その流れを受け、企業見学や職場実習の機会が減少・喪失したことで、求職者のモチベーションが下がっており、また在職者の働く意欲にも落ち込みがみられているという声が聞こえてくるようになりました。プロジェクトでは、その様な声に向けて何か出来ることはないだろうかという模索を重ね、年度当初目標にしていた【定期的な学習会】【仕事の魅力発見フェス】という2本の柱について、諦めずに取り組もう！という思いが高まり、開催方法を検討しながら取り組むことが出来ました。

柱①：学習会<2回開催しました！>

プロジェクトメンバー自身が障がい者雇用に関する理解や知識を深め、力を付けていくことを目的とした学習会です。
1回目は『雇用のプロセスから就労定着について』、2回目は『特別支援学校の見学会報告』『仕事の切り出しと業務のマッチング』について、メンバー内の雇用事例を基に学び合いました。
安定した職業生活を継続するためには、
・初期段階の支援（マッチングや職場環境の調整・現場の理解・・・）
・その後の中長期的な支援（キャリア形成・生活環境の変化による問題への対応・・・）
など、企業の抱える課題は多岐に渡ります。
2度の学習会を通して、このような様々な課題は、数人雇用している企業とこれから取り組む企業とは、学びたいポイントが違ってきているという感想も寄せられました。今年度は、企業の受入れ状況の段階にスポットを当てた学習会などを開催していきたいと思っております。



柱②：仕事の魅力発見フェス<オンラインで開催しました！>

2回目の「仕事の魅力発見フェス」は、この1年間で培ったリモートスキルを総結集！発表企業一参加事業所一事務局をオンラインでつなぐ形式での開催となりました。
1日目は『清掃の仕事』を、2日目は『厨房の仕事』を、働く企業の業種に焦点を当てて職種を比較するという内容で行いました。
参加された利用者さんからは「実際の働いている場所を見ることができて良かった」「一部を体験するのも良いが、多くの作業を任されている事を知ることが出来た」など、働くイメージがより具体的になったという声も多く寄せられました。
十勝管内のみならず、道内・全国各地から多くの皆さんにご参加いただきリモート開催のメリットが最大限に活かされたイベントとなりました。



DVDの貸し出しも
行っておりますので、
お気軽にご相談下さい！

まとめ

昨年度好評を得た「仕事の魅力発見フェス」に関しては、仕事の体験に変わるメリットを検討するという壁にぶつかりました。見て学ぶ・比較するという事はできたとしても、イメージを持ちづらい障がいのある方には、実際の道具を使い体験できるという事が一歩前に踏み出すきっかけになったのは間違いありません。それと同様に、就職前の体験実習などが行えない状況が、求職者の就職への意欲を引き上げられない原因につながっていることがプロジェクトとしても課題と感じ、地域への働きかけを行うことを検討しております。今年度は活動の柱として ①情報発信 ②教育 ③組織拡大 ④提言の4つを掲げ、求職者・福祉関係者・企業団体などの連携を取りながら、障がい者雇用と就労定着に関する普及啓発を行っていく予定です。

定着支援研修

働く当事者対象
定期開催の研修です



リモート研修もあり



昨年5月に「新しい生活様式」が提唱された状況下にあっても、当センターには就労中の障がいをお持ちの方とその所属先企業から定着支援研修のご要望を沢山いただきました。その声に当センターがどのようにお応えできるかを検討し、例年に比べて小規模での開催やオンラインツールの活用などを行うことで、より一層個々人の課題や経験別のニーズに合わせた内容を提供できるよう、コロナ禍を逆手にとった体制へのシフト変更を提案させていただきました。就労時に求められる一般常識やビジネスマナーの確認を行った「社会人基礎研修」、コロナによる困り事と元々抱えている課題を参加者同士で語り対応方法を考え合った「コロナに負けるな 皆で知恵を出し合い乗り切ろう！」「わたし達と新しい生活様式」、コロナ禍のコミュニケーションに焦点を当てた「With コロナでも変わらない働くためのコミュニケーション」などの研修テーマで企画・開催いたしました。最終的に全10回・述べ100名を超える方々にご参加いただき、結果として「必要な研修が必要な方に選んでいただく」という目標に近づけたと考えております。今年度も研修内容と開催方法を検討しつつ、前年度の経験を活かした取り組みを皆様に提案してまいります。

行政福祉担当者情報交換会 令和2年8月31日開催



当センターが開設以来こだわってきた「顔の見える関係作り」を土台に、同じような課題を持つ市町村同士が横につながることを目的に会を企画しました。19市町村への聞き取りで集約した地域での好事例や課題の共有を行い、十勝管内の特色は大きく4つに分けられました。

- ① 人口規模が少なく、ご本人や市町村内の資源の状況、相談支援とのかかわりの状況などを包括的に把握し、市町村内の資源のコーディネート機能になっている地域
 - ② 福祉専門職が配置され、引きこもりなどサービスにつながらない方へのアプローチや町民の潜在的ニーズの掘り起こしを丁寧に行っている地域
 - ③ 市町村内において、乳幼児健診、発達支援センターや障がい福祉サービス、介護サービスへと情報が引継がれ、対象者の方の状況を捉えるシステムができてきている地域
 - ④ 福祉だけの問題にとどまらず、財政・商工・労政・農政・教育など横のつながりの中で、広い視点を持ち課題解決にあたっている地域
- 意見交換では、日々の相談や業務での困りごとや住民ニーズの掘り起こし、障がい・引きこもり・生活困窮などの多岐に絡み合う相談のニーズや対応について話題が出ました。また、「財政予算の課題」では、年々増え続ける給付費に対し、障がい者雇用への適切な予算の予算の使い方に対する議論が飛び交いました。年度が替わり、担当者のご異動があった市町村もありますが、この1年間の活動や新たな展開の共有を行いたいと考えております。

移行支援事業所連絡会

リモート研修もあり



この連絡会は、就労支援の核となる就労移行支援事業所の皆さんが集まり、地域全体の支援力の向上や、情報交換等を行う中での横のつながり作り、日々連携を取っていきける関係性作りを目指していきけるよう、昨年度より取り組み始めました。実際に昨年度行った事業所訪問での話から、事業所間の交流や支援者同士が顔を合わせる場があると良いとのご意見をいただき、まずは参加者同士が知り合い関わる機会を増やしていくこ



とを第一の目標とし、活動を行ってまいりました。また、立場や経験により求めるニーズや悩み等も異なることから、参加者層を『サービス管理責任者・リーダースタッフ』『現場支援員』に分け、隔月毎に会を運営してまいりました。この様な経過で進んでいった会でしたが、回数を重ねるにつれ、参加者の皆様から挙げられる課題やニーズ、今後目指していきたい方向性について深めていけた1年だったように感じます。今年度既に具体的な活動に向けて動きが進められておりますので、随時発信してまいりたいと思っております。

令和2年度 十勝障がい者就業・生活支援センターだいち 研修実施結果

| | 研修名 | 対象者 | 回数 | 内容 |
|----------|---|----------------------|------------------------|---|
| 障がい当事者対象 | 社会人基礎研修 | 入社間もない方 基礎を確認したい方 | 集合2回 | ・9月3日「働く上で必要なビジネスマナーを学ぼう」…企業16名・オブザーバー11名参加 ・3月17日「コロナでも変わらないコミュニケーション」…企業12名参加 |
| | 課題別研修 | 興味のある方なら 誰でも | 4回実施 | ・6月22日、7月20日、7月21日、1月5日開催…各3名参加 「コロナに負けるな、みんなで知恵を出し合おう」と題し、生活上の変化やストレスの解消法などを話し合いました |
| | スキルアップ研修 | 基礎を 理解している方 | 4回実施 | ・集合研修…10月6日「情報交換、個別相談会」を実施しました（30名参加） ・リモート開催…2月18日（6名参加）、19日（6名参加）、26日（5名参加） |
| | 働く大人のしゃべり場 | 働く当事者 | 課題別研修 に振替 | ・感染予防のため、自由に集まる会への呼びかけは控えたが、当事者からの余暇的な活動に対するニーズは大きく、小グループ活動による研修方式の場の提供を行いました |
| | ピアサポート研修 | 求職者 | 1回 | ・9月3日…社会人基礎研修への参加を促し、働いている方の研修に求職者が参加することで刺激をもらえる場となりました（8名参加） |
| | 就労準備研修 | 求職者 | 2回 (リモート) | ・仕事の魅力発見フェスの開催…3月9日（清掃の仕事大研究）3月11日（厨房の仕事大研究）2回合わせて、延べ260名の方にご参加いただきました |
| 企業対象 | 定着支援研修 | 企業担当者 障がい当事者 | 計9回実施 | 企業の代表として参加していただく方法を取っているため、企業への呼びかけにより参加を促しています（上記定着支援研修会とリンクします） |
| | 企業プロジェクト | 企業担当者 | 学習会2回 計8回実施 | ・学習会…8月18日「障がい者雇用の進め方」・10月27日「仕事の切りだしと業務のマッチング」（両日ともに14名参加） ・その他、運営会議、フェス準備会を実施 |
| 関係機関対象 | 地域就労支援連絡協議会 及び 帯広市自立支援 協議会 就労・社会活動部会 | 就労支援に 携わる方 | 1回実施 1回書面会 議での実施 | ・10月8日…ハイブリット研修（参加者…会場64名、リモート34名） 施設外就労をテーマ、それに関する行政説明と、3事業所からの事例発表を行いました。会場、リモートの双方の参加方法によるハイブリット研修を行いました ・3月25日…書面会議(報酬改定や雇用率の改定、当センターからの研修予定等を提供) |
| | 就労支援担当者 スキルアップ研修 | | 6回開催 (集合・リモート) | ・今年度は、就労移行支援事業所の連絡会を開催し、それぞれの活動の状況を知り合うことを中心に活動しました。現場支援員・サビ管のグループを作りニーズを聞き取りました。この内容は、次年度の研修内容に反映していきます |
| | 障がい者就労支援 ネットワークセミナー | | 1回実施 | ・8月30日…十勝管内の19市町村の行政福祉担当者の皆さんに参加いただき、地域の基本情報・相談のニーズの掘り起こし・障がい福祉サービスにおける給付費の状況・行政戦略などをテーマに、情報交換をしました（30名参加） |

昨年度は、新型コロナウイルス感染症による活動の自粛があり、様々な研修への影響がありました。例年は100名規模の研修が年に3~4回、50名規模の研修会を随時行っていたが、小規模・リモートへとスタイルを変更して行いました。特に定着支援研修会は、定期的に行うことで就労定着へのフォローアップに位置づけられておりましたが、昨年度は参加人数の関係から、ニーズが出てきた方に向けて優先的に実施してきた経緯があります。しかし、就労定着支援の潜在的ニーズは声が上がっていないところにあると考え、今後も定期開催が行えるシステム作りを考えてまいります。また、利用者さんの対応の為現場を離れられない、遠方で参加が難しいという事業所からの声が多いことから、今後は研修資料の提供や動画の配信なども行ってまいります。準備が整い次第お知らせいたしますので、ぜひご活用ください。